

貯蔵粗飼料を主体とする和牛若令肥育試験

菊地 惇・永田直二
(長崎県総合農林センター)

KIKUCHI, A.

Experiment on Fattening of Yearling Steers fed Stored Roughages

青刈主体の飼料構成は時期的に養分のむらを生じ易く、経営計画を立てるにも面倒である。特に現在の水田経営では夏期の飼料栽培が困難で、生産の期待するのは裏作物のサイレージ、乾草のような貯蔵飼料が主とならざるを得ない。又、九州で生産の多い甘藷のつるも貯蔵飼料としての利用が望ましい。これらの、割合入手し易い飼料を栄養源とする若令肥育が可能であるか否かを確かめようとした。

1. 試験方法

1) 期間 昭39.12.14~昭40.12.8 360日間

2) 供試牛 月令5~6月の黒毛和種去勢牛 4頭

3) 管理 けい留式 飼料1日3回分与

4) 処理 2頭にヘキサテス埋没(昭40.9.9)

第1表 発育状況 kg

牛番号	1	2*	3	4*	平均	
開始時体重	181	211	206	187	196.25	
中間 体重	3月24日	284	294	289	271	284.50
	7月12日	369	369	360	332	357.50
	9月10日	400	383	374	358	378.75
終了時体重	486	498	448	472	476.00	
全期間増体量	305	287	242	285	279.75	
一日当増体量	0.85	0.80	0.67	0.79	0.777	

(注) *2, 4号牛 Hexx ettes 埋没

第2表 飼料摂取量と利用率 kg

牛番号	飼料摂取量				利用率			
	1	2	3	4	1	2	3	4
濃厚飼料	肉牛	大豆	配合粗粉		637.4	637.4	637.4	637.4
	大麦	蜀黍			64.3	64.3	64.3	64.3
	小計				99.1	99.1	99.1	99.1
根菜類	甘藷	ブ	諸ラ		800.4	800.4	800.4	800.4
	小計				644.0	644.0	644.0	644.0
					300.0	300.0	300.0	300.0
埋草類	イタリ	ア	ン		1857.7	1822.5	1817.2	1753.6
	エ	ン	ク		843.1	829.9	830.5	782.6
	小計				132.0	132.0	132.0	132.0
乾草類	バヒヤ	イモ	ツル他		628.8	625.4	613.2	621.6
	イタリ	ア	ン		186.5	185.8	185.0	183.5
	小計				1948.0	1948.6	1973.6	1946.4
生草	換算	摂取量		8613.0	8550.0	8520.1	8412.0	
所要	増体	当量			0.954	1.008	1.194	1.011
	養分				5.792	6.122	7.243	6.084

第3表 屠殺解体結果

牛番号	1	2	3	4	
日令	528	552	552	543	
屠殺前	体重A	465	480	432	456
	肉量B	280	286.5	260	275
	冷肉量	278	285.5	258.5	273.5
屠殺後	歩留B/A	60.2	59.7	60.2	60.3
	肉歩留(%)	64.5	63.0	63.6	63.5
技術規格	丸重	極上	極上	上	極上
	脂肪	上	上	上	上
	交判	上	上	上	上
	雜定	上	上	上	上

第4表 収支概算

牛番号	1	2	3	4	平均
販売手取額	174,128	173,809	158,860	167,807	168,651
養牛費	46,425	58,930	52,883	49,603	51,960
飼料費	48,156	47,920	47,859	47,518	47,863
差益	79,547	66,959	58,118	70,686	68,828

(注) 粗飼料質は農林省生産費調査(昭36)による。

(1) 裏作飼料といもづるを貯蔵型態とし、これを主な粗飼料源とした濃厚飼料寡給の若令肥育は可能であった。

(2) サイレージは漸次ならせれば相当量を給与する。中期の最高時には22.5kgを喰下し得た。

(3) サイレージ給与は肉質、脂肪色に何等悪影響を及ぼさなかつた。

(4) 末期に早堀甘藷を利用することで購入飼料は大幅に節減し得た。

(5) ヘキセテス埋没の効果は著しかつた。

第1図 飼料給与日量の推移

